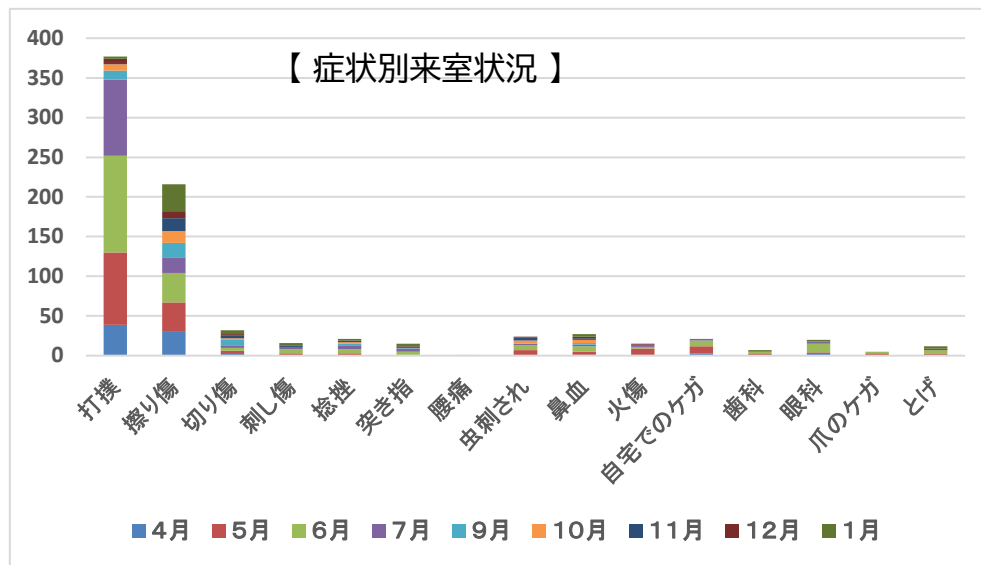
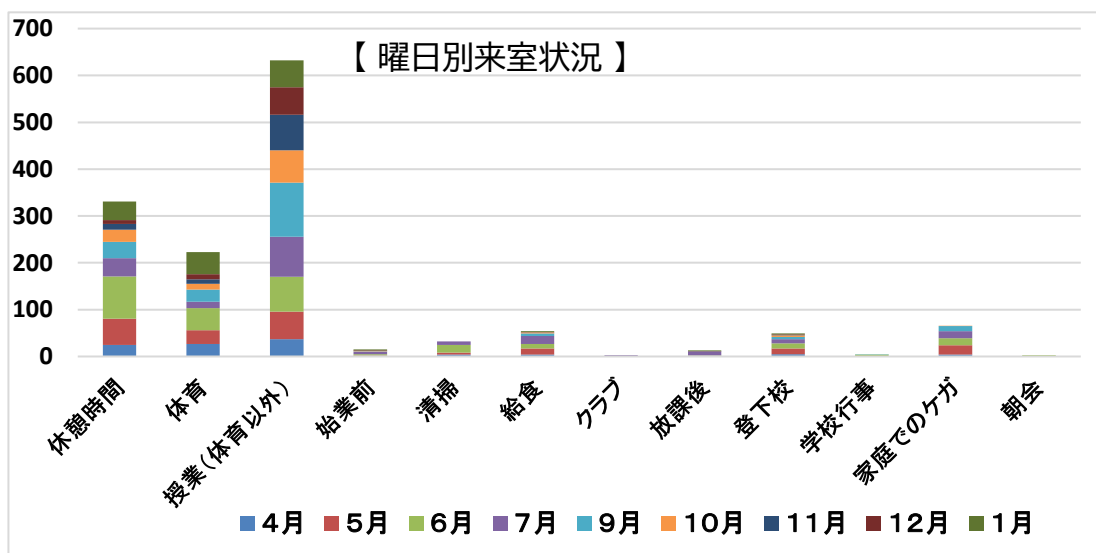


【 外科的主訴 】

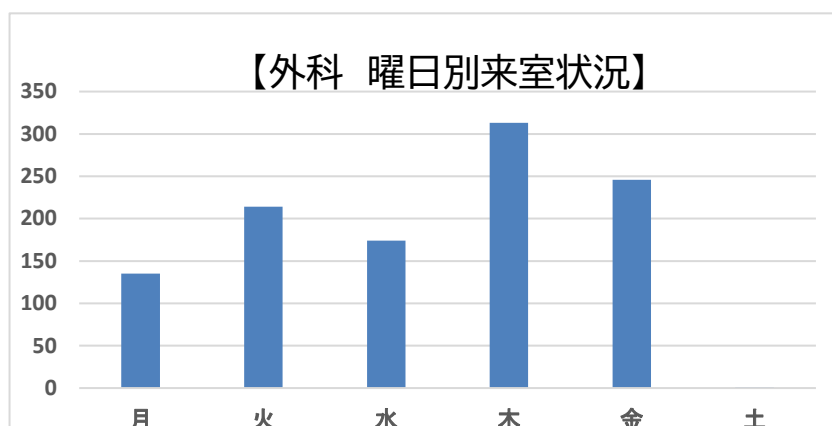


- 1番多かった来室状況は、打撲、2番目は擦り傷、3番目は切り傷であった。
- 打撲とはいっても、打ち身や一時的な痛みが多く、医療機関へ搬送するケースは多くなかった。

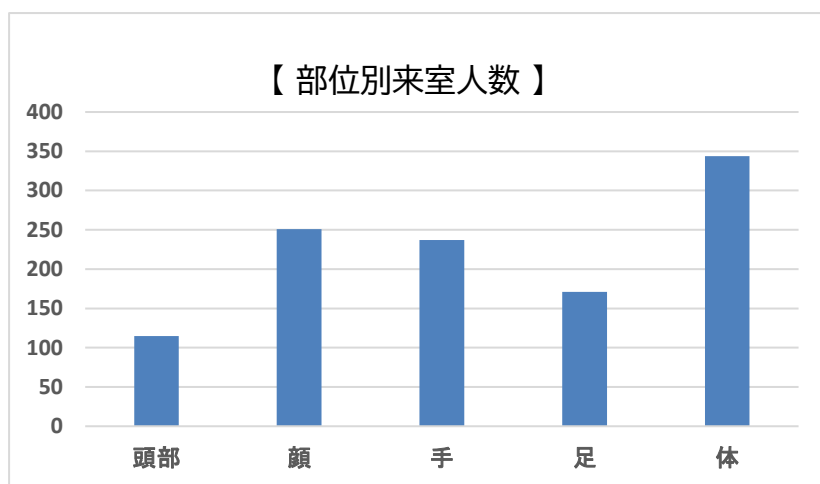


- 1番多かった月は、9月。授業時間(体育以外)で負傷する児童が多くいた。
- 図工の時間に、はさみを使用して負傷したり、プリントを受け取る際に、手指を切ったりでの来室もいた。
- 家庭でのケガも多く、放課後、クラブでケガをして自宅で応急処置を行ったが、カットバンが剥がれたので再度、消毒など行って欲しいとの要望もあった。
- 休憩時間や体育の授業中に、捻挫の来室もあり、しばらく経過観察をしたが状態が回復せず、ケガの状況を、担任または養護教諭から医療機関へ搬送する事例もあった。

※今年度も、体温計や救急バッグを各クラスに年度始めに配布しているため、初歩的なケガについては担任の先生が応急処置をして下さる場合も多く、来室者数に影響にあるように思う。

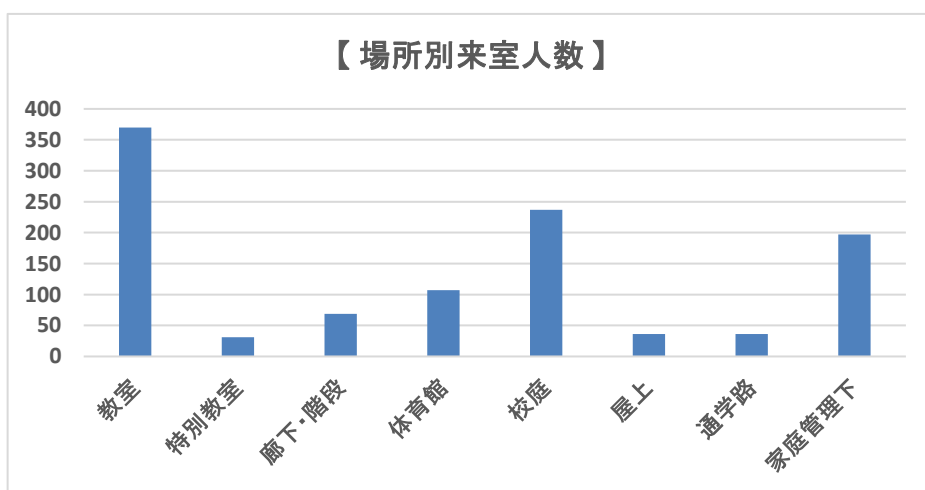


○外科的主訴での来室する曜日は、1番多いのが木曜日だった。



※ 重複あり

○1番多かったのが、体。体の部位とは、腰、胸部、腹部、背中、肩、首の部位を示す。



○1番多かったのが、教室での負傷であった。

○家庭管理下での負傷も多く、本来ならば家庭での負傷は保健室での応急処置は認めないが、また、一つのケガに対し、継続的な応急処置を求める児童もいた。

